

高崎市文化財調査報告書第200集

平成17年度
市内遺跡発掘調査報告書

2006

高崎市教育委員会

序

高崎市は昔から現在に至るまで「交流拠点」として発展してきました。平成18年1月23日でもって隣町の群馬町・倉淵村・箕郷町・新町の四町村と合併しました。面積が大きくなっただけでなく町村の特長が活かされる内実共に今後益々発展が期待されるところであります。

試掘調査は高崎市内全域が対象であります。新規開発の土地は年々減少しているように感じられますが、建物建築に伴い古い建物を壊した再々開発は増加しているようです。平成17年度の試掘調査の件数は前年よりやや増加しました。今年度も試掘調査の結果、遺構が確認されたものについては記録することにしました。試掘調査に協力していただいた関係各位の皆様に厚くお礼を申し上げます。

平成18年3月

高崎市教育委員会
教育長 砂田威夫

例言

1. 本書は平成17年度事業の市内遺跡の結果報告書である。
2. 事務局 神戸聖語 斉藤寛方 山下孝子
3. 調査担当 神戸肇
4. 試掘調査地、トレンチ、遺物の撮影は担当がおこなった。
5. 試掘調査の記録、出土遺物は市教育委員会で保管している。
6. 試掘調査は緊急対応の確認調査であり出土遺物の取りあげや処置にも雑な面があり、その他についても同様の考えであります。

凡例

1. 頁にある頭数字と名称は試掘調査地名である。
2. それらは試掘調査一覧表のNo.に対応している。
3. 本文中の記号A、B、FP、FA、C、YPは降下テフラの略で次のように表記される。
As-A : 浅間Aテフラ (1783年頃降下)
As-B : 浅間Bテフラ (推定1108年降下)
Hr-FP : 榛名・伊香保テフラ (6世紀中頃降下)
Hr-FA : 榛名・伊香保テフラ (6世紀初頭降下)
As-C : 浅間Cテフラ (4世紀中頃降下)
As-YP : 1万3千～4千年前頃浅間山より噴出
4. 位置図は高崎市発行の2500分の1の地図を原図として縮小あるいは拡大して使用した。

目次

序

例言

凡例

平成17年度高崎市市内試掘調査一覧表	1, 2
平成17年度試掘調査位置	3
6. 日高	4
8. 台新田	4
9. 貝沢柳町	5
11. 貝沢井ノ貝戸	6
12. 東町	6
18. 大八木	7
24. 矢中	7
26. 下中居	8
28. 下佐野	9
33. 八幡原	10
35. 中居	10～12
37. 貝沢島	13～14
41. 上中居森貝戸	15
44. 剣崎稻荷塚	16～19
47. 貝沢稻荷塚	20
50. 昭和町	21
64. 剣崎森下	22
65. 宮原	22
68. 上並榎	23
総括	23

平成17年度 市内試掘調査一覧表

No.	所在地	開発内容	面積 (㎡)	調査内容	備考
1	上小碓町東原1021-1他	ドライブイン建設	2,009	遺構、遺物なし。傾斜低地。	
2	矢島町上沖638-1他	デイクアセンター建設	1,433	遺構、遺物なし。河川堆積土。	
3	乗附町字向荒久3066	携帯電話無線基地局建設	653	遺構、遺物なし。礫、岩屑混じり土層。丘陵。	
4	矢島町中沖18他	介護施設建設	2,158	遺構、遺物なし。河川堆積土。	
5	上中居町辻薬師1609-1他	共同住宅新築	1500.1	遺構、遺物なし。B堆積あり。	
6	日高町字村前490-4他	ドライブイン、レストラン建設	3,569	Bあり、B水田可能性あり。Bの上下層の遺構なし。	
7	倉賀野町辻薬師4645-2他	土地分譲	6,755	遺構確認できず。二度の建物建設で攪乱。	
8	台新田町台西102他	分譲住宅	2,651.28	自然溝、風倒木痕確認。	
9	貝沢町柳町1423-3他	定期借地分譲	2,640	地形変化。流れ込み土器あり。	
10	常盤町48-1	校舎改築	21,867	遺構なし。砂礫堆積土層。	
11	貝沢町字井ノ貝戸2106	共同住宅新築	337.18	遺構なし。泥流土層。	
12	東町117-1,2,3,4	貸事務所・共同住宅建設	862.71	B下畦畔検出。A,FA遺構なし。	
13	宿大類町塚ノ越900-1	店舗用地造成	2,171	B部分的。ゆるい傾斜地。	
14	石原町2926-1	鉄塔建設		遺構、遺物なし。丘陵斜面。	
15	八島町82-11 他	共同住宅建設	1,939.14	近現代の柱痕。泥流堆積。自然地形。	
16	栄町2-1 他	共同住宅建設	869.64	火山灰洪水土層。攪乱。	
17	柴塚町1907-2	長屋新築	975.5	ローム表面にB軽石の線条痕あり。	
18	大八木町諏訪腰622-1	店舗建設	13,979.34	中世ピット。	
19	井野町吉岡甲1213 他	建物予定地	851	河川堆積土層。遺構なし。	
20	上佐野町190-1	土地分譲	870	河川堆積土層。遺構なし。	
21	乗附町宮尾根1006-1他	土地分譲	1,503	遺構、遺物なし。砂質主体。	
22	下和田町1-8-23	住宅新築	118.7	遺構、遺物なし。混土、ローム層の2層。	
23	上佐野町舟橋192-1	長屋新築	556	河川堆積土層。遺構、遺物なし。	
24	矢中町村北188-1他	病院建設	10,397	B下は泥炭化。遺構なし。	
25	南大類町峰岸437-1他	農業共同組合支店	1,547.60	河川影響の土層。遺構なし。	
26	下中居町八幡前247-1他	集合住宅建設	1,808.25	飛鳥～平安土坑。	
27	矢中町下村北556-1	ガソリンスタンド建設	2,715	ローム層と粘質土層の接点。	
28	下佐野長者屋敷958-6他	アパート建設	996.96	ローム上層2層。遺構なし。	
29	若田町北原782-1	携帯電話の電波塔建設	60	遺構なし。傾斜地形。流れ込み土器。	
30	八千代町4-370-1	建売分譲住宅	1,619	河川堆積土。遺構、遺物なし。	
31	剣崎町稲荷塚687-1	建売分譲住宅	905	沢地状地形。遺構、遺物なし。	
32	上中居町岡西1526-1	集合住宅	1,149	中世溝。流れ込み土器。	
33	八幡原町北川久保477-1	道路新設		中世土坑。	
34	上中居町島薬師563-1	共同住宅建設	914.34	B水田。	
35	中居町1丁目11-2	共同住宅建設	420	周溝墓。古墳時代の溝、杭跡。近世土坑。	
36	山名町北若宮229-1他	砂利採取	9,176	砂礫土層。	
37	貝沢町島806-1	共同住宅建設	1,087ノ一部	近世土坑。羽釜等土器出土。	

38	上中居町西屋敷151	共同住宅建設	1,348	B軽石層あり。水田跡確認できず。B上下層とも遺構土層なし。	
39	井野町天水1056-6	浄化槽設置	250	前表土層直下にB軽石層。	
40	下大類町富士塚23-2他	共同住宅及び貸事務所	688.13	遺構、遺物なし。旧河川範囲。	
41	上中居町森貝戸863-1	共同住宅建設	595.88	混土層。流れ込み土器あり。	
42	飯塚町村内596-1	共同住宅建設	463	遺構、遺物なし。地下は傾斜地形。	
43	飯塚町十二464他	スポーツ練習場建設	4,033	遺構、遺物なし。B、FA土層なし。	
44	剣崎町稲荷塚704-4	専用住宅建築	332	南際にピット。遺構なし。縄文中期土器片出土。	
45	下之城町村北150-4	建売分譲及び道路築造	657	B純層なし。自然地形。洪水土層。遺構なし。	
46	下小塙町屋敷裏210-1他	ドライブイン建築	2,222.19	氾濫堆積土層。遺構、遺物なし。	
47	貝沢町稲荷塚1222-1	集合住宅新築	456	墳丘削平。	
48	江木町大日沖1044-3	共同住宅新築	918	泥流に堆積土層。傾斜地形。	
49	石原町毛無2474-1	墓地駐車場	2,382	遺構、遺物なし。丘陵傾斜地。	
50	昭和町167-2	土地分譲住宅	1,295.64	FA水田あり。S字甕出土。	
51	下大類町寄居252-1の一部	共同住宅新築	747.33	遺構、遺物なし。泥流上堆積土。	
52	井野町砂田480-1他	共同住宅新築	1,729	遺構、遺物なし。段丘地形。	
53	新保町139-1他	事務所新築	1,615	遺構、遺物なし。河川影響。	
54	貝沢町塚越937-4	集合住宅新築	3,086	遺構、遺物なし。自然溝、泥流。	
55	貝沢町944-2他	宅地	1,072.59	遺構、遺物なし。川の影響あり。	
56	上佐野町舟橋195-1の一部	長屋住宅新築	1,672	遺構、遺物なし。河川堆積土。	
57	高関町村西121-1他	共同住宅新築	310	遺構なし。C混土層内に土器。	
58	浜尻町旭貝戸777の一部他	宅地分譲	1,411	遺構、遺物なし。現表土層のみ。	
59	井野町島ノ分630他	資材置き場建設	4,838	遺構、遺物なし。窪地状堆積。	
60	浜尻町村前56-3他	土地分譲	1,186.94	近世炉跡。植木で攪拌される。	
61	高砂町32-3他	共同住宅建設	3,658.23	遺構なし。氾濫堆積土。攪乱。	
62	新後閑町諏訪廻177-1	建物新築	423.57	遺構なし。軽石混土層のみ。	
63	和田田中町180-2	共同住宅建設	554.73	B軽石層あり。	
64	剣崎町森下239他	共同住宅建設	2,257	B軽石層あり。水田可能性。	
65	宮原町7-1	土地分譲住宅	6,413.67	中世井戸跡。土坑。自然溝。	
66	日高町江田境168-1	露天駐車場	6,510	南面傾斜。泥流面は浅い。	
67	上並榎滝谷715-1	建売分譲住宅	1,414	弥生時代の溝あり。	
68	上並榎町75,76-1	長屋新築	716	平安時代の畦検出。	
69	京目町上小路1241-1	集合住宅建築	354.09	中世屋敷内か。	
70	剣崎町谷津452-13他	土地分譲地	2173.63	縄文、須恵、土師器片出土。	
71	倉賀野町砂押3045-1	倉庫・事務所建設	2713	泥流土層から上層は埋土。	
72	上中居町1583-他	共同住宅建築	1159.42	浅間A軽石の処理溝あり。	
73	正観寺911-1	マンション新築	838.06	洪水土層。B軽石あり。	
74	八幡原町北川久保499-1	電波塔建設	995	河川縁の堆積土層。	
75	八幡町六枚922-1他	建売分譲住宅	2190	縄文、弥生、古墳、奈良平安、中世の遺物。	
76	八幡原町大鼻251-1	自宅・修理工場建設	870	中世土坑あり。	
77	あら町55-1	ビジネスホテル建設	509.61	建物による攪乱。	

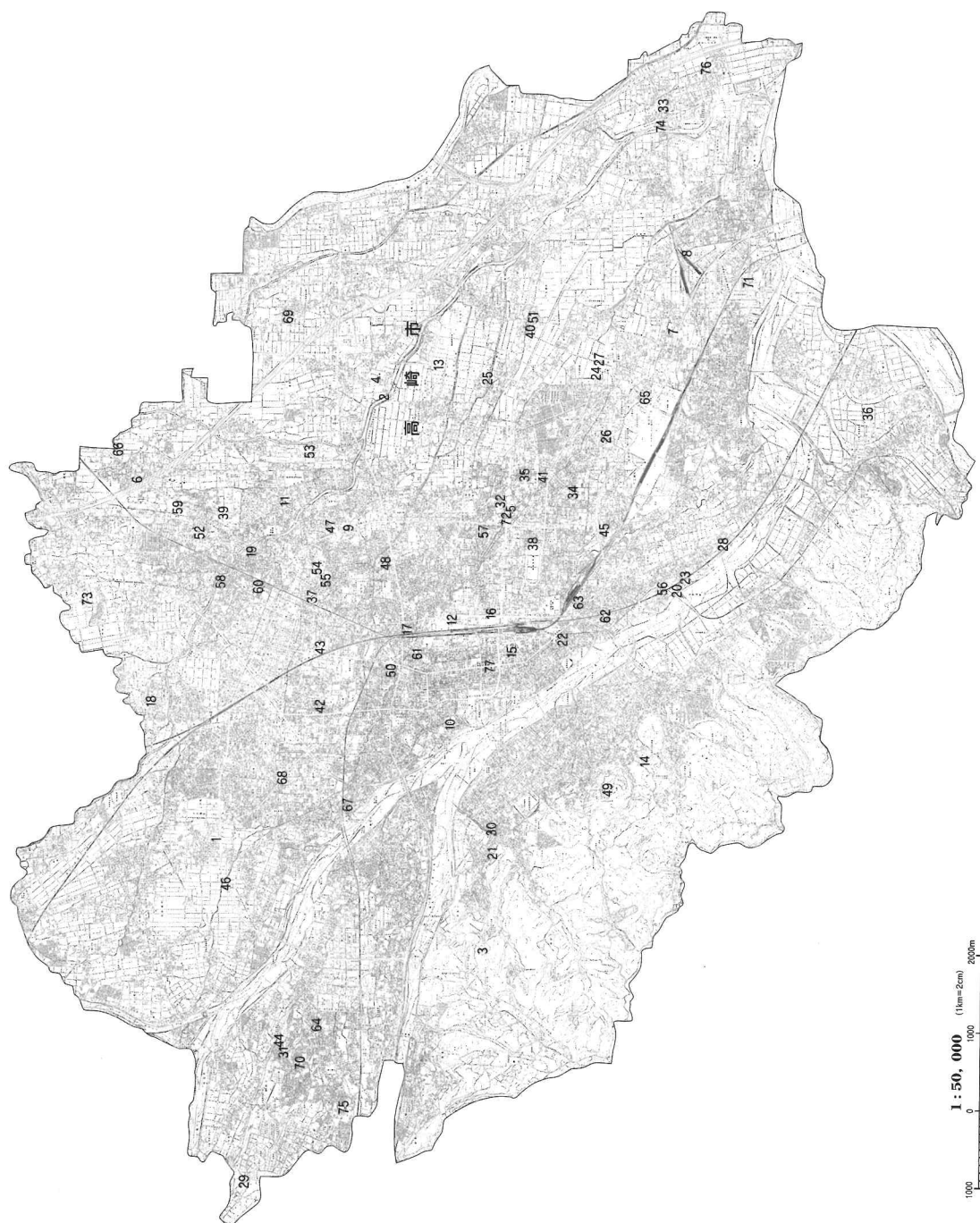


図 1 平成17年度試堀調査位置図

6. 日高

(1) 所在地 日高町村前490-4

(2) 調査期間 平成17年4月20日

(3) 対象面積 3,569m²

(4) 開発内容 ドライブイン建設

(5) 経過・結果 調査地は盛土の上面にバラスを敷いた駐車場として現在利用中である。この場所にドライブインを兼ねたレストランを建設予定している。

調査地は地方道前橋・高崎線と高速関越自動車道のクロスした北側に位置する。この交差点の西側450m先の高速道路下に国指定の日高遺跡がある。トレンチの調査面の深さは約1mである。一部土層確認のための深堀部分で約1.4mある。現地表より約90cm下にB軽石層を確認した。軽石の層厚は10cmである。直下の黒色粘質土層は厚さ6～7cm。水田遺構の可能性は高い。トレンチの南側に同じレベルで高まりがあり、畦部分かと思えたが溝に堆積した粘土質が盛り上がったものと分かった。その部分を50cm以上も掘り下げても同質の黒色粘質土がつづいていた。その直下層は灰白シルトである。土層内には枝付の木が幾つか埋もれており東西方向の溝であることがわかった。

8. 台新田

(1) 所在地 台新田町台西102他

(2) 調査期間 平成17年4月27日

(3) 対象面積 2,651.28m²

(4) 開発内容 分譲住宅

(5) 経過・結果 本調査地は市中心地から東南地域にある岩鼻小学校の西約200m先の台地に位置する。対象地は前セメント会社の敷地であってセメントが地面全面に打たれている。場所によっては深い位置まであった。トレンチは東側を東トレンチ、西側を西トレンチとした。西トレンチ：表土より約75cm下でB混じりの覆土の溝3本を検出した。西側より番号つけた。溝1の上幅40cm、下幅18cm。溝2は上幅80cm、下幅70cm。(写1) 溝3は上幅46cm、下幅27cmである。トレンチ幅は狭いので全体像は確認できないが溝2と溝3の覆土には浅間Bが入っている。溝の形からすると溝2と溝3が人工的で遺構に近い。

東トレンチ：西トレンチの土層とはかなり違った土質で表土層下は浅間Aが多量あり、次に2層分かれたB混土が多量層、褐色シルト層、泥流土層とづく。

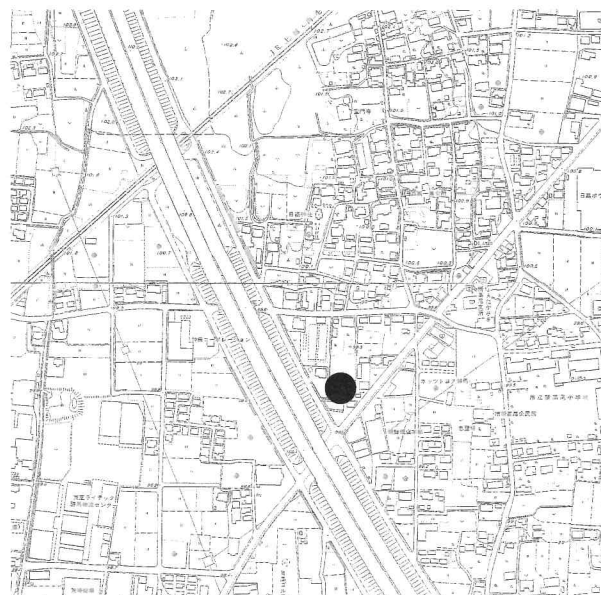


図2 位置図

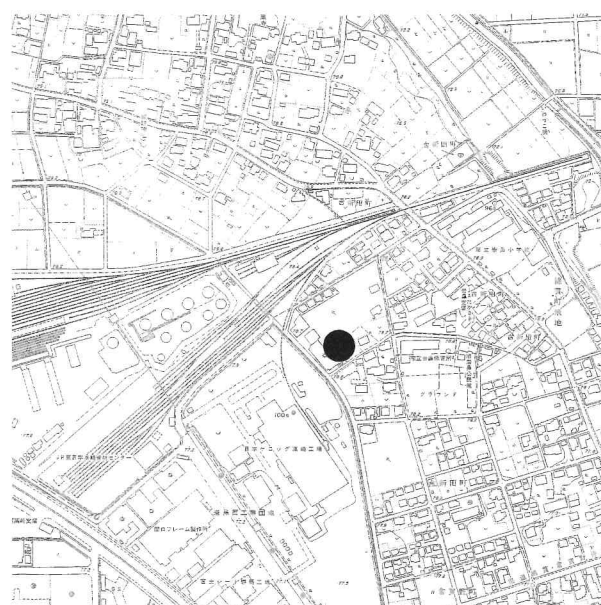


図3 位置図



写1 西トレンチ 溝2北壁 南から

9. 貝沢柳町

- (1) 所在地 貝沢町柳町1423-3
- (2) 調査期間 平成17年4月28日
- (3) 対象面積 2,646m²
- (4) 開発内容 定期借地分譲

(5) 経過・結果 貸店舗建設の予定である。それに先立ち試掘調査を実施した。本調査地は市街地東側に走る環状線とそれに接続されている桜木通りの交差点東に隣接した場所にある。現況は畑である。本調査地の東の「桜木通り」には方形周溝墓や住居跡が調査された貝沢柳町遺跡がある。周溝墓出土のパレススタイルの壺は人気があり貸出も度々おこなわれている。トレンチは建物予定地と駐車場予定地におこない、西側の掘削を西トレンチ、東側を東トレンチとした。

西トレンチ：深さは現表土面から63～86cmで土層は6層目のローム漸移層まで確認した。1層目の現耕作土層以下の各層は黒褐色、黒色の砂混じり、あるいは砂混じりのシルト土層、わずかに粘るシルト土層。川砂が入る層もある。東トレンチ：西トレンチよりやや粗雑な土層でA混土層とB混土層、黒色シルト、ローム土層の順になっている。トレンチ内のロームを南北方向に横断している溝、あるいは溝を埋めている覆土からすると西側の土層はいったんこの位置で止まるようである。すなわち地形の変化点が考えられる。

図4は西トレンチの現耕作土層下層2～4層から出土したものである。3点とも弥生式土器の壺で1、2は頸部～肩部分、3は肩部分であろうか。1は櫛状工具を使い古いタイプが考えられる。

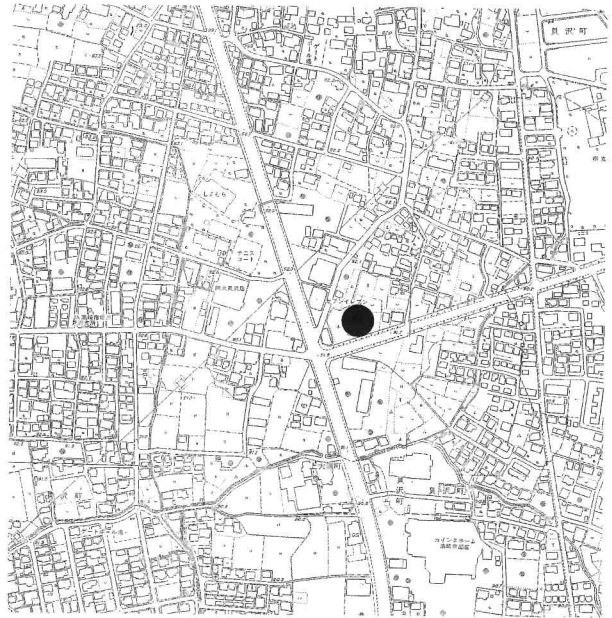


図4 位置図



写2 西レンチ全景 車から

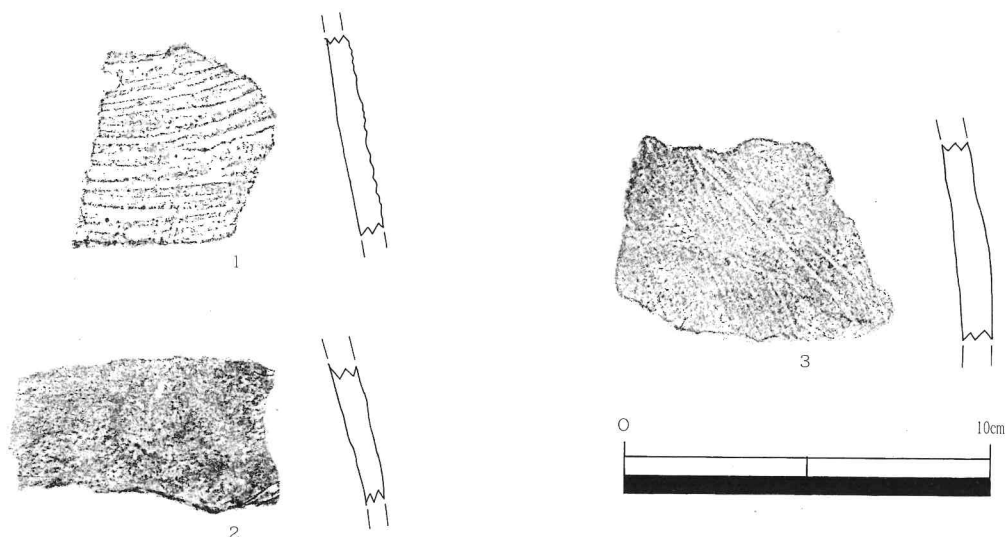


図5 出土遺物

1 1. 貝沢井ノ貝戸

(1) 所在地 貝沢町井ノ貝戸2106

(2) 調査期間 平成17年5月18日

(3) 対象面積 337.18m²

(4) 開発内容 共同住宅新築

(5) 経過・結果 本調査地は県立高崎商業高校の西側に約200m行ったところに位置している。対象地は南側を頂点とした変形三角形をしている。本調査地の北側と西側は住宅があるが元々は畑の土地と思われる。試掘調査の対象地は平地のやや微傾斜地状である。東側道路を境として東から南は現水田、あるいは元水田地域である。調査地から東へ約350mの場所で平成14年に試掘調査を実施した時にロームを掘り込んだ中世の堀が考えられる遺構が見つかった。

この周辺には弥生時代の遺構もあるが中世遺構もあるのでその関連も考えられた。当日は解体工事と同時の調査となった。トレンチは南北方向に入れた。

土層は期待したものではなく現表土層下は粘質土の泥流土層であった。水平堆積ではないが泥流土層いれて10層ある。トレンチ内に泥流土層を掘り込んだと思われる土坑あるいは溝が確認された。(写3) 土層から弥生の遺構も考えられる。

1 2. 東町

(1) 所在地 東町117-1他

(2) 調査期間 平成17年5月23日

(3) 対象面積 862.71m²

(4) 開発内容 事務所・共同住宅

(5) 経過・結果 本調査地はJR高崎駅東口前に走る地方道前橋・高崎線西側に隣接する位置にある。

調査地の現況は盛土の更地ではあったが前はガソリンスタンドがあったと聞く。周辺の遺跡状況は南側隣接にB水田が確認されている。道路東側ではB、FA水田が調査されており今回もそれらの遺構が考えられた。トレンチは建物予定位置となる東西方向に一ヶ所入れた。結果：盛土表面から約135cm下に6～7cmの厚さで浅間B軽石の堆積があり、軽石を取り除いた結果、畦畔2ヶ所検出した。(写4) トレンチ東側の畦は上幅40cm、下幅107cm、高さ10cm。トレンチ西側の畦は上幅40cm、下幅93cm、高さ6cmである。畦の形状は良好であった。2本の畦の距離は6～7.5mの距離である。下層のFAもCもなかった。

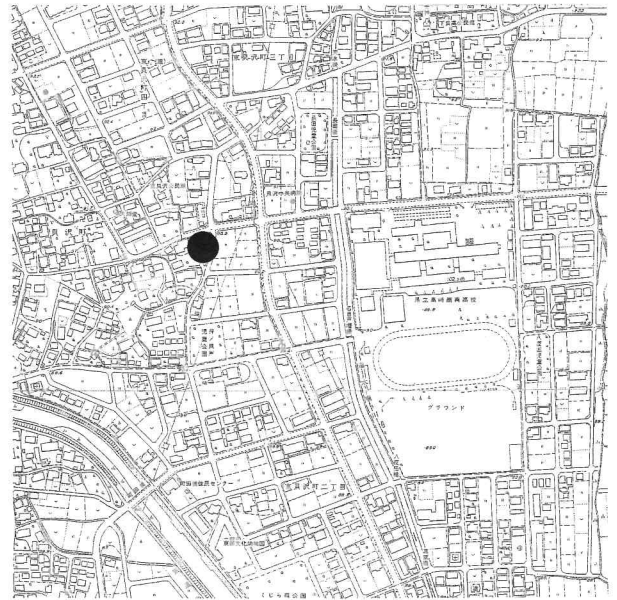
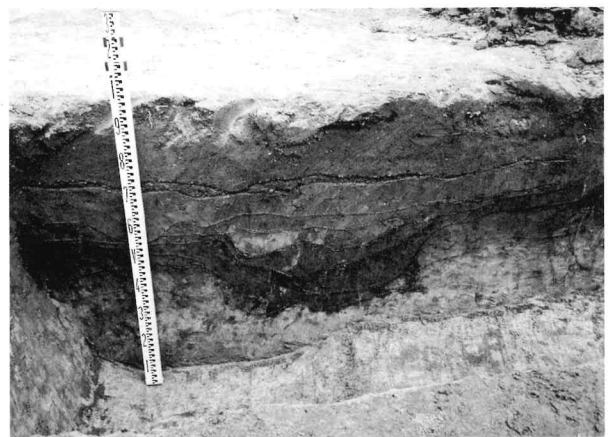
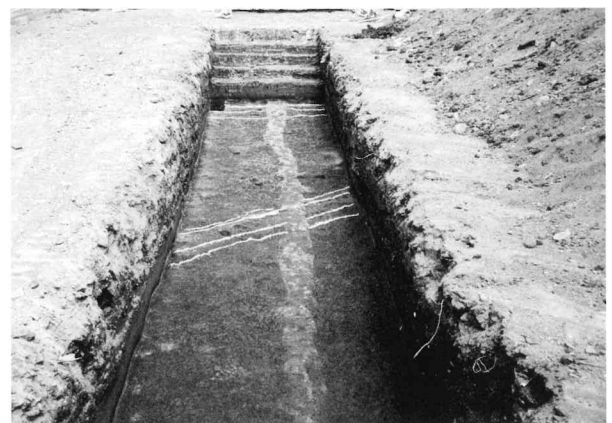


図 6 位置図



写 3 トレンチ東壁 西から



写 4 B下畦畔 西から

18. 大八木

(1) 所在地 大八木町諏訪腰622-1他

(2) 調査期間 平成17年6月2日

(3) 対象面積 1,397.934m²

(4) 開発内容 店舗建設

(5) 経過・結果 本調査地は地方道高崎・渋川線と県道柏木沢・高崎線の交差点の東南角の場所にある。大八木工業団地の一角の中にある。海拔は105mから106mで榛名山の噴火によって形成された扇状地末端に近い位置にある。榛名山山麓からの水源は多く、中小河川となり東南方向へ流れていく。その川の一つである井野川は本調査地の南200mにある。井野川周辺には多くの遺跡が調査されてきた。本調査地道路渡った西側の雨壺遺跡では縄文、弥生の住居跡はじめ古代の住居跡を検出している。その地続きである熊野堂遺跡でも弥生時代の遺構を調査している。本調査地の試掘調査当日は他の事業も継続中であり慎重を要した。北と南とその中間に3本のトレンチを実施した。中間のトレンチで細砂シルト土層を掘り込んだピット（写5）を検出した。覆土は浅間Bが混ざっているので中世の柱穴とした。単独のピットなので建物跡の柱穴であるかどうか分からない。トレンチ外にそれに対応するピットがあるかもしれない。トレンチ全体で他からは遺構らしきものが見られないところをみると、周辺の過去の発掘調査例からすると今回の調査地は遺構の薄い所にあたったと考えられる。

24. 矢中

(1) 所在地 矢中町村北188-1他

(2) 調査期間 平成17年6月27日

(3) 対象面積 3,569m²

(4) 開発内容 病院建設用地

(5) 経過・結果 本調査地は市立矢中小学校前の道路北側に接する水田地である。すでに区画されていて各水田は整然としている。南に隣接する道路と周辺は過去に調査されてきた。隣接する道路では平安時代の水田跡が調査されている。本調査地含めたこの地域一帯は条里制にもとづいた水田地帯でもあるので今回も同時代の水田遺構が考えられた。調査面は現水田面より32~66cmである。Bの純層は認められなかった。下層であるFA洪水層、FA下の粘質土層もなかった。黒色の僅かな粘りのシルト土層表面に注目された。

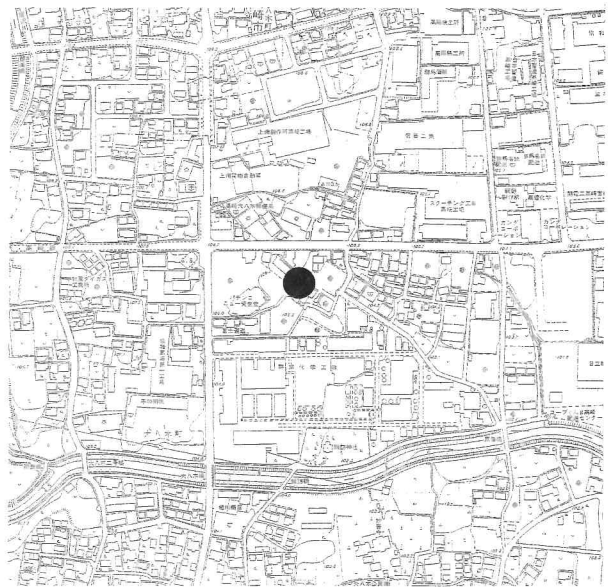
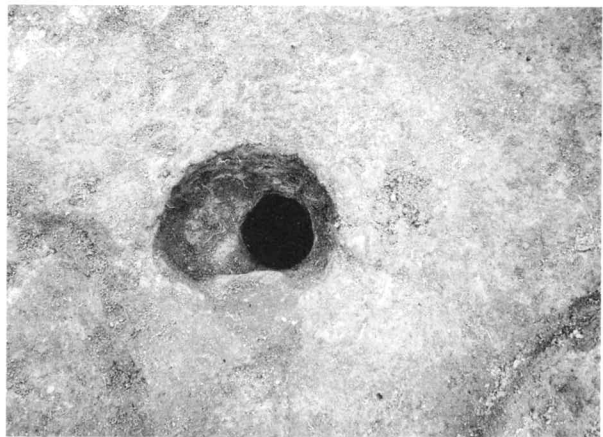


図7 位置図



写5 3トレンチピット 西から



写6 トレンチ内 南から

26. 下中居

- (1) 所在地 下中居町八幡前247-1他
 (2) 調査期間 平成17年6月30日
 (3) 対象面積 1,808.25m²
 (4) 開発内容 集合住宅建設
 (5) 経過・結果 本調査地は市内東側の環状線と国道17号線が接合する下之城交差点より東へ直線で約1km行った場所にある。元々は水田地域だったが現在は住宅、マンションが林立する住宅区域に変わってきている。都合により緊急の試掘調査となった。トレンチの調査面の深さは65～70cm。トレンチ土層は7層を確認した。4層目までは砂質土層でA軽石層が一部、B混土層も一部分見られた。5層目の砂混じり粘質土層、6層目の黒色粘質土層から土器が出土した。5層目から出土した土器は土層より流れ込み土器であると考えられる。遺構は7層を浅く掘り込んだ土坑1、土坑2の2ヶ所検出した。6層目に浅間B軽石の混じった溝2条検出したが自然の溝であった。2ヶ所の各々土坑の大きさは1m前後、深さ約20cmである。出土遺物1-1,1-3,2-1,2-2,2-3は須恵器で残りは土師器である。遺構は9世紀から9世紀後半ぐらいの年代が考えられる。

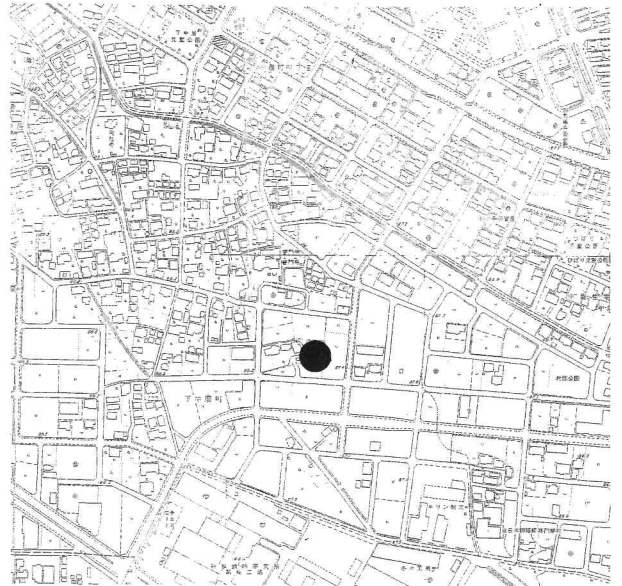
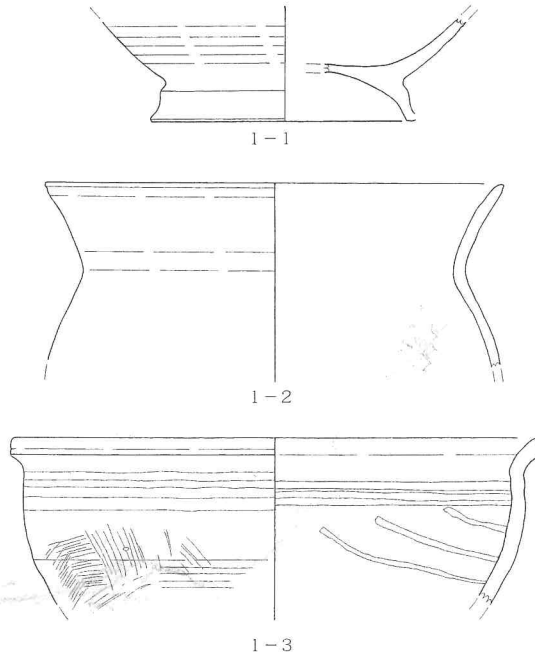


図8 位置図

土坑1



土坑2

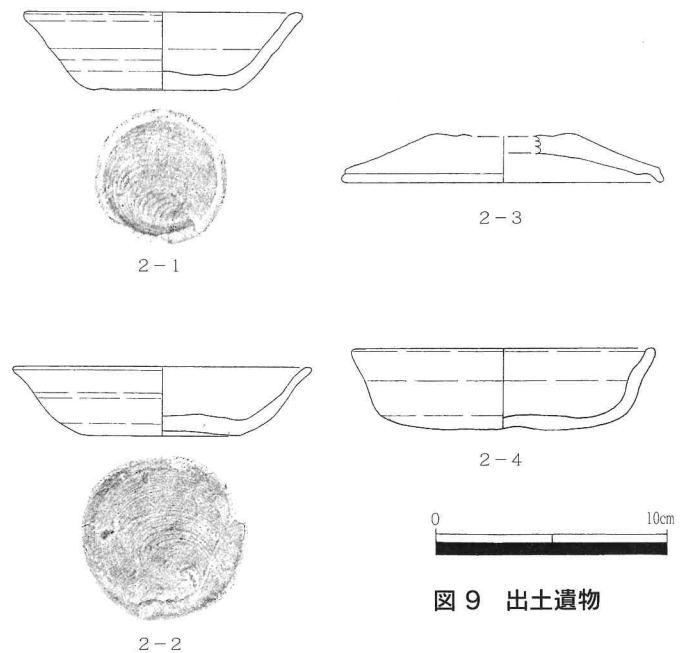


図9 出土遺物

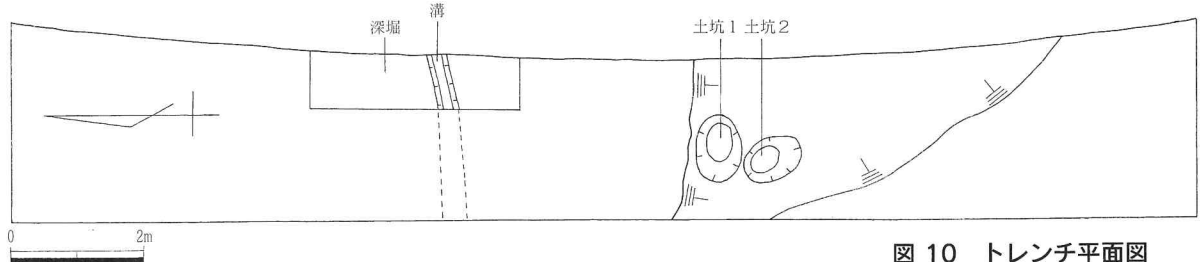


図10 トレンチ平面図

28. 下佐野

- (1) 所在地 下佐野町長者屋敷958-6他
- (2) 調査期間 平成17年7月7日
- (3) 対象面積 996.96m²
- (4) 開発内容 アパート建設

(5) 経過・結果 本調査地は佐野1本松通りの西側、JR上越新幹線は西側目の前に走っている。さらに100m少し先には烏川が東南方位に流れている。地形的には高崎台地の縁に近い場所に位置している。周辺の遺跡の時代的範囲は縄文時代から古墳時代、古代まで続いて貴重な資料を提供している。特にJR新幹線建設に伴う発掘調査では縄文時代の住居跡、古墳時代の住居跡、古墳跡を調査している。多量の遺物が出土している。そのような環境であるので当該調査地もこれら遺構の可能性を想像させられる場所である。

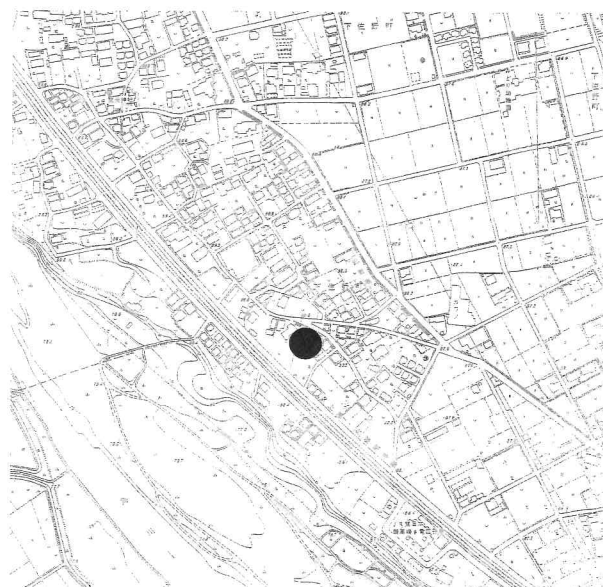


図11 位置図

調査地の地目は畑である。表面は良く耕されている。柔らかい状態になっている。トレンチの深さは約60cmでその数センチ前後が調査確認面である。トレンチの土層は厚さ21cmの現耕作層の下層は暗褐色のローム漸移層、ローム層の3層であった。調査土層はローム漸移層およびローム層直上である。調査結果は期待を裏切るものだった。出土遺物は掘削機で掘られた土坑からで、現代のゴミと一緒に土坑1（攪乱）、土坑2（攪乱？）からの出土遺物である。図に載せたのは残りの良い土器片で他にも小さい土器片が一緒に出土している。接合できたのは土坑2から出土した底部分だけである。残っている土器片から全部で5個体ぐらいの土器が考えられる。土器片はすべて縄文土器であった。遺構に伴う土器ではないが周辺の遺跡に関わり合いもあると思い図面をのせた。紙面の都合で土器の詳細はのべないが器面の特徴から勝坂3式終末から賀曽利E1の土器が考えられる。

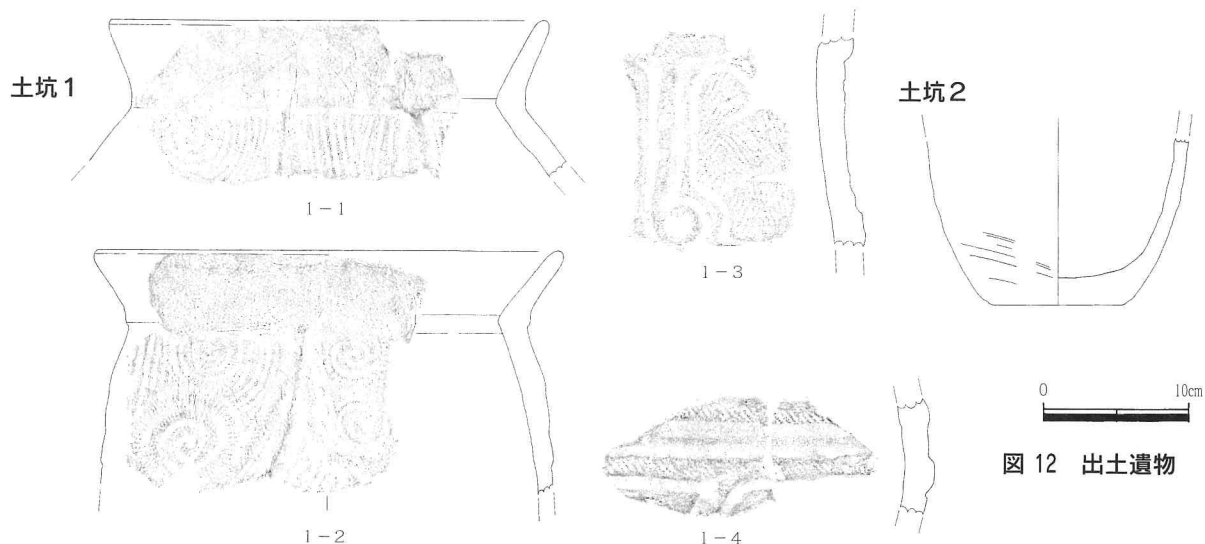


図12 出土遺物

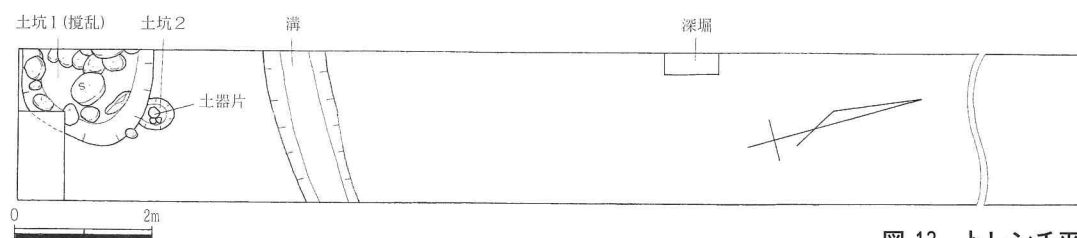


図13 トレンチ平面図

33. 八幡原

(1) 所在地 八幡原町北川久保477-1

(2) 調査期間 平成17年8月29日

(3) 対象面積

(4) 開発内容 道路新設

(5) 経過・結果 本調査地は「群馬の森」から東へ約0.5km、西に流れる井野川から約0.4km、東に走る高速道路・関越道より西へ約0.4kmの位置にある。地形的には井野川の左岸段丘上にある。かつて古墳が群在していた地域でもある。また本調査地近くには戦国時代の館址があって、少し南には例幣街道がある。対象地の現況はトウモロコシ畑である。その場所に町内道路を建設する予定である。トレンチは東西方向に長い長方形を2箇所入れた。掘削の深さ、調査面までの深さは現表土面から約83cmである。トレンチ土層は現耕作土層入れて5層ないし6層である。トレンチの東側と西側で少し土層が異なっている。西側は現耕作土層以下泥流土層にB混土だけである。東側はロームにB混土、A混土層がのる。その差違は段丘縁に近いことが作用したものと考えられる。東側トレンチにおいて、B混土覆土とした土坑3ヶ所を検出した。トレンチの制約もあり確定できないが土層等から中世遺構とされる。あるいは調査地の東にある館址の関連あるものと考えられる。

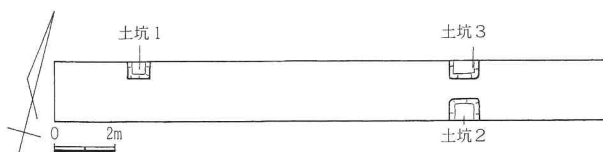


図15 トレンチ平面図

35. 中居

(1) 所在地 中居町1丁目11-2の一部

(2) 調査期間 平成17年9月1日

(3) 対象面積 420m²

(4) 開発内容 共同住宅建築

(5) 経過・結果 本調査地から北西に直線で約0.3kmに現在調査中の上中居遺跡がある。この発掘調査地を含めた範囲に上中居遺跡群として過去に弥生、古墳時代の竪穴住居跡、畠跡、平安時代の水田跡。中近世の掘立柱建物跡、井戸、土坑が調査されている。遺物では縄文中期・後期土器が出土している。近くの諏訪神社は調査地の南西に隣接している。本調査地周辺0.5km内の過去の試掘調査において遺構

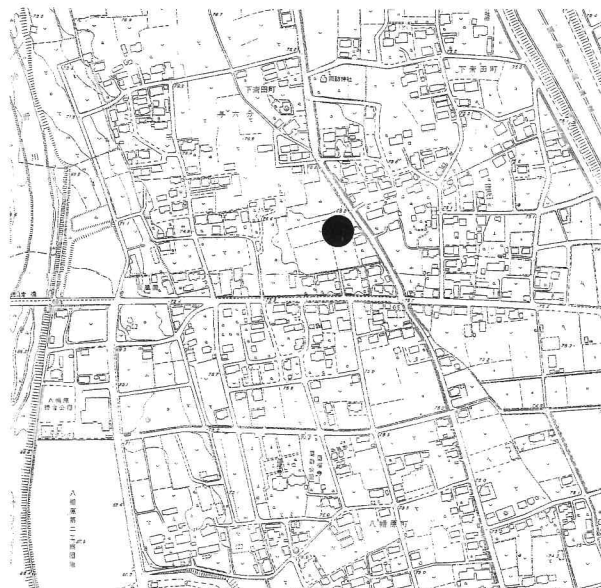


図14 位置図



写7 土坑 北から

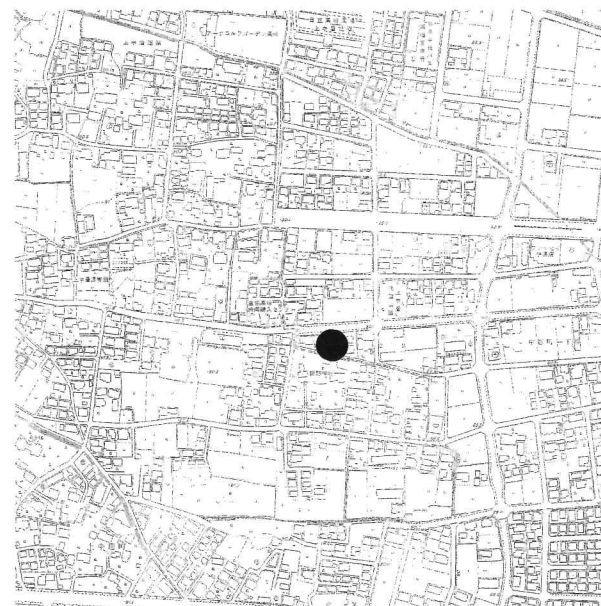


図16 位置図

が見つかっているので、それらを含めると上中居遺跡群はもっと広い範囲になることが考えられる。現況は畠で耕作中である。トレンチの掘削の深さ及び調査表面までの深さは現表土面から84～86cm、トレンチの土層は層から7層である。トレンチの範囲は実際は狭いものである。トレンチの形状は調査地の地形に従い東北から西北に長く、南北に短いL形である。トレンチ内に溝2ヶ所、土坑2ヶ所、木杭跡を検出した。表土層5～8cmぐらいから下は元々の土ではあるが、トレンチ内の土層は層には成っているが全層動いている感じがして掘削中気になっていた。一番ひどく攪拌されている場所はトレンチ西側の北西からの西壁で、調査面近くまでだった。溝そのものは当時のものと考えられる。溝1、2、木痕跡の間隔は同じ間隔で弧を描いているようである。(図16) (写9) これらの溝から出土した土器は下の(図17)であるが縄文、弥生、土師器と混じっている。溝2はロームを掘り込んだもので、出土したS字甕部分は溝底からの出土で流れ込みではないようで遺構の性格を示している。状況から周溝が考えられる。残りの溝と木痕との関係も周溝に関係したものか。遺物は縄文、古墳、中近世等である。後の話だが調査地は区画整理された土地であった。

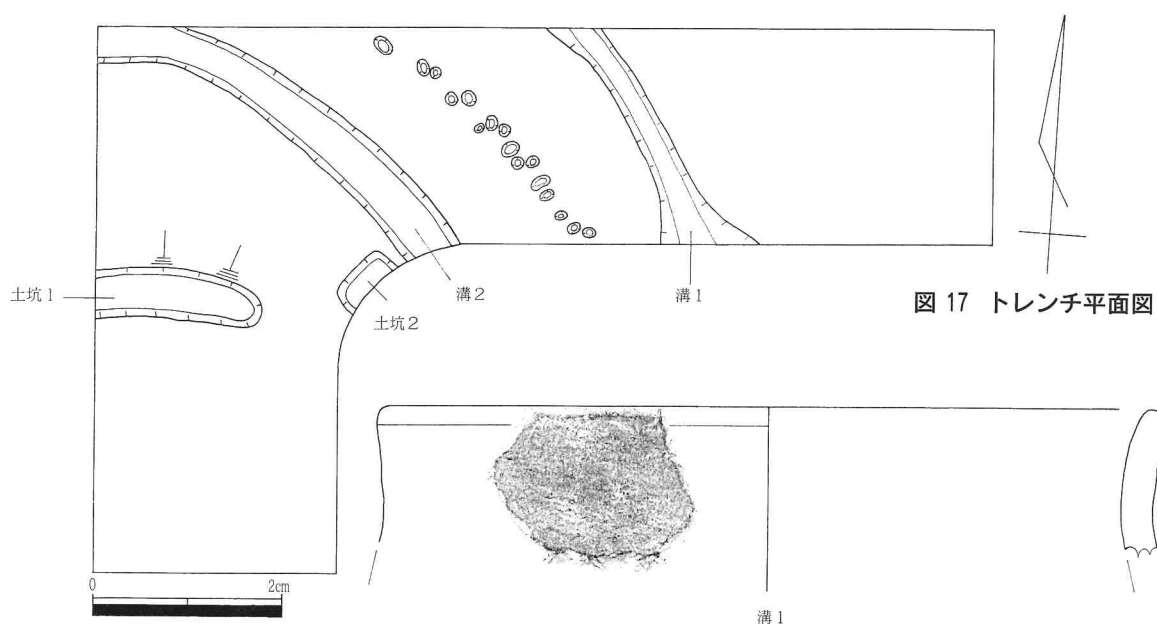


図 17 トレンチ平面図

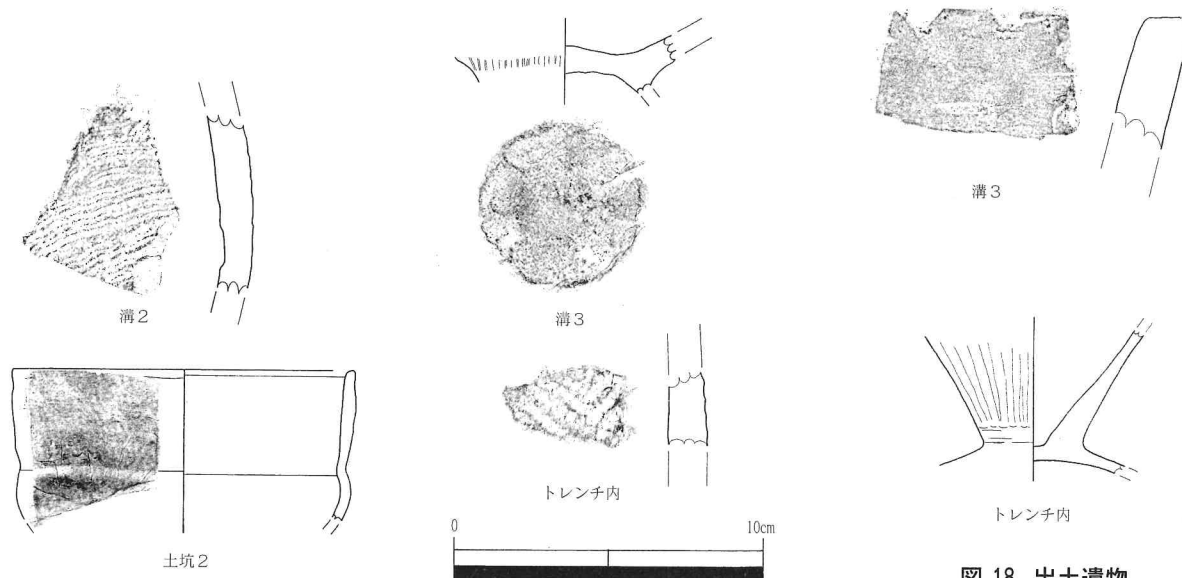


図 18 出土遺物

35. 中居



写 8 トレンチ全景 北西から



写 9 溝、周溝 北西から

37. 貝沢島

- (1) 所在地 貝沢町島806-1
 (2) 調査期間 平成17年9月12日
 (3) 対象面積 1,087m²
 (4) 開発内容 共同住宅建築

(5) 経過・結果 本調査地はJR両毛線・問屋町駅南西に直線約0.2km下った位置で、両毛線の東側にある。調査地の現況は草の生えた更地である。過去には町内のゲートボール場として利用していた。表面は一部セメントブロックを残していた。調査地の北～北東には住宅があるが反対側は現在水田である。元々は水田区域だったと考えられる。調査地の北側には水路が東南に流れ、枝分かれした水路は調査地を東側から南面を囲み南に流れて行く。トレンチは調査地の北側（北トレンチ）と南側（南トレンチ）の2ヶ所実施した。土層：北トレンチの調査面までの深さは表土面から約49cm下で5層の土層で、6層目は火山灰泥流となっている。表土面から3層までA混土、4層目はB混土、5層粘質土内に羽釜（図19-1）高台付き碗（19-8）が出土。南トレンチ：土層は盛土層、A混土層、（2層約43cm厚さ）、褐色粘質土層である。褐色粘質土層から図の碗や羽釜等が出土した。両トレンチ出土遺物は10世紀代と考えられる。

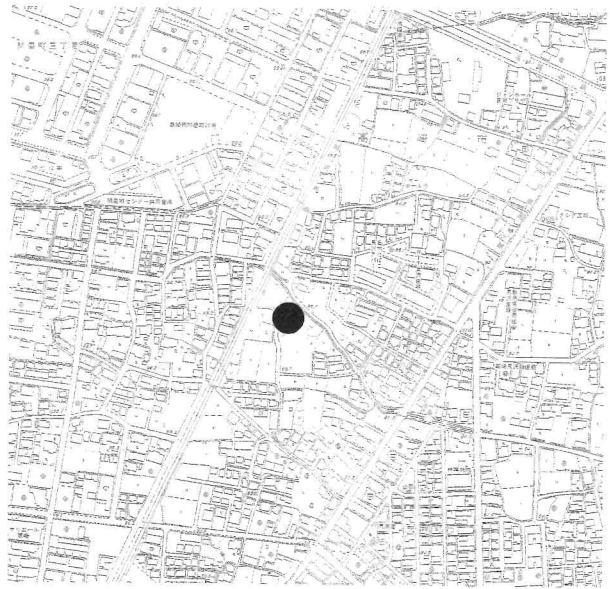


図 19 位置図

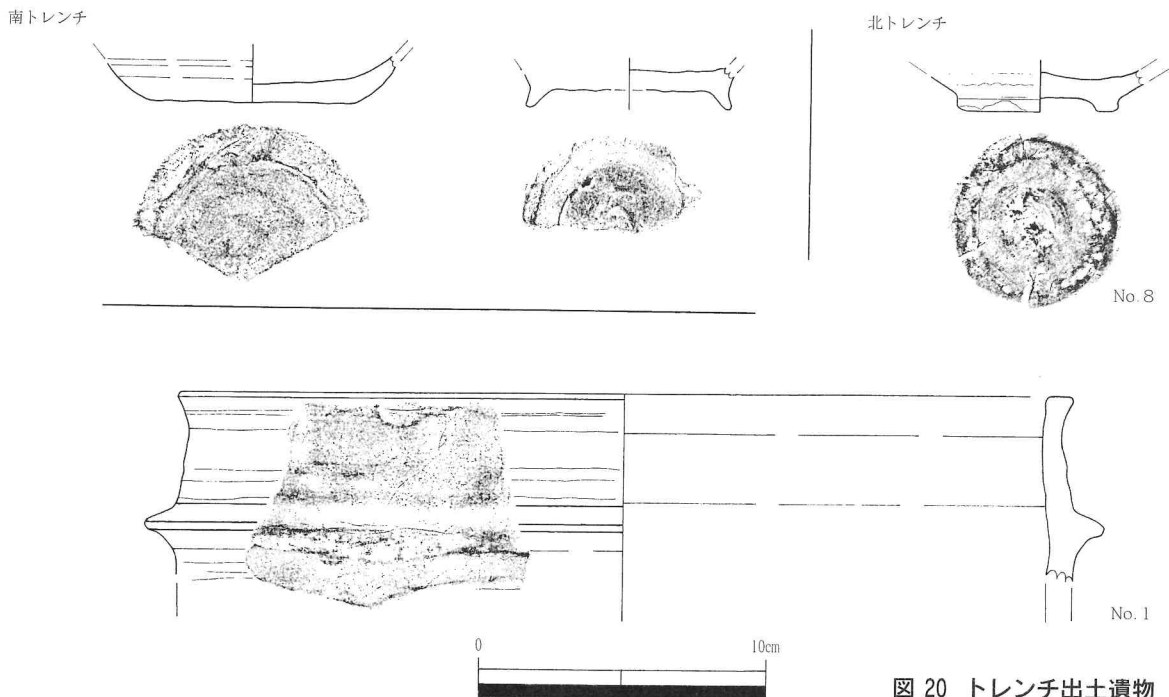


図 20 トレンチ出土遺物

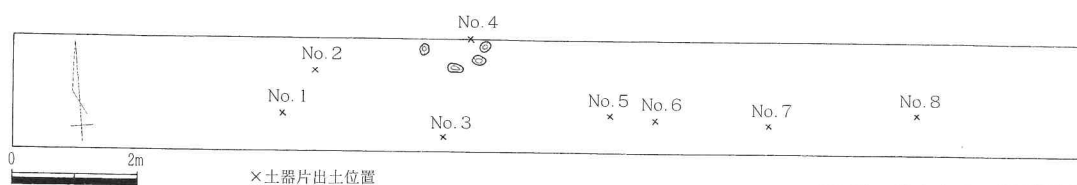
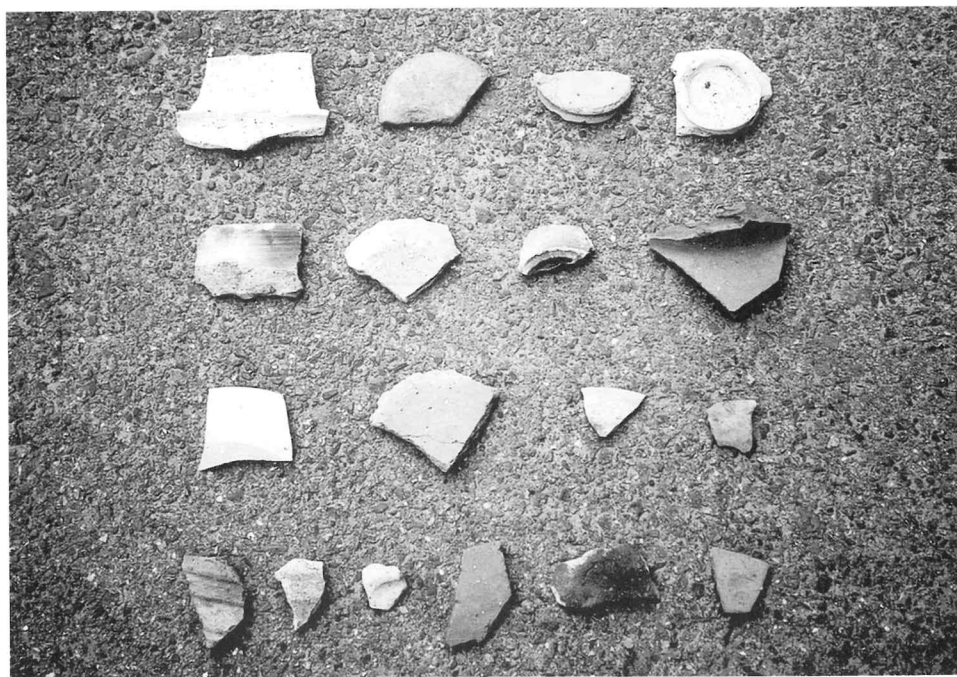


図 21 北トレンチ平面図

37. 貝沢島



写 10 北トレンチ 西から



写 11 出土遺物

4 1. 上中居森貝戸

- (1) 所在地 上中居町森貝戸863-1
 (2) 調査期間 平成17年9月29日
 (3) 対象面積 595.88m²
 (4) 開発内容 共同住宅建築
 (5) 経過・結果 本調査地は高崎競馬場から東へ約1km行った所で競馬場通りと言われている通りから北へ約50mほど中に入った位置にある。現状は貸し畑地となっている。トレンチは建物予定位置に合わせた。掘削の深さ及び調査面までの深さは現表土面より70～87cmである。トレンチ北側、深さ75cmの位置で炉壁の崩れたブロック状の痕が見つかった。浅間B混土層のさらに1層下のわずかに砂が混じるシルトを覆土としている。ブロックの形状、状態からすると中世のものと考えられる。同じ面には縄文中期土器片が出土している。流れ込み土器とすればかなり激しい氾濫をうけている土地である。

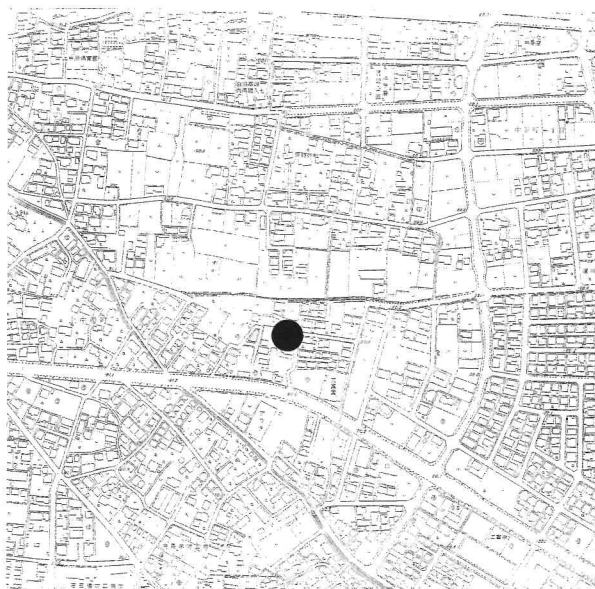


図 22 位置図

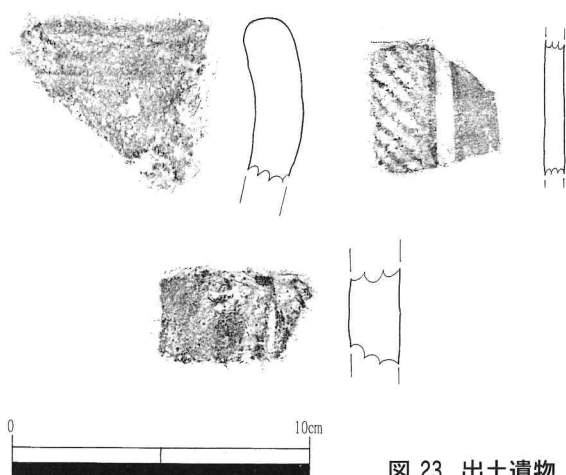


図 23 出土遺物



写 12 位置図

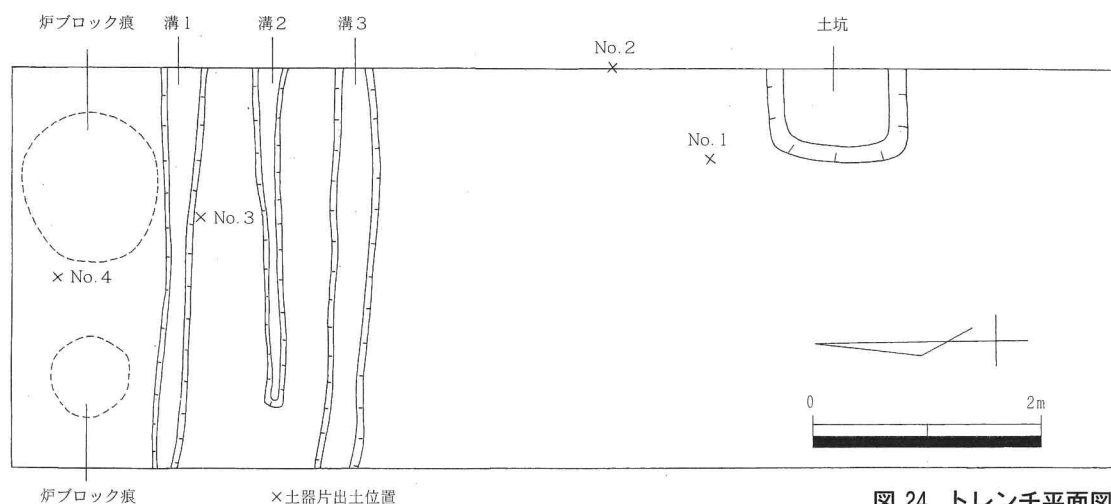


図 24 トレンチ平面図

4.4. 剣崎稲荷塚

(1) 所在地 剣崎町稲荷塚708-1

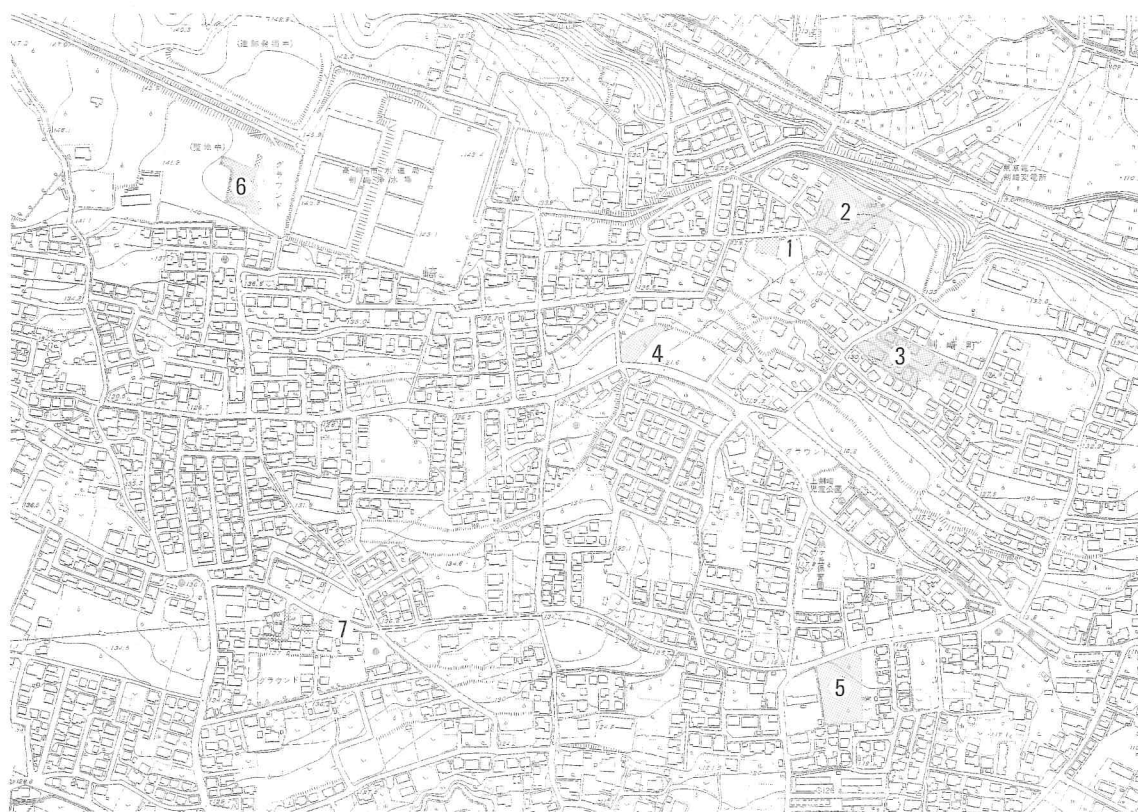
(2) 調査期間 平成17年10月6日

(3) 対象面積 332m²

(4) 開発内容 専用住宅新築

(5) 経過・結果 本調査地は高崎市中心部から北西方向にある若田台地にある。この台地の南側前方には碓氷川が東に流れ、台地南面に段丘をつくっている。北側には烏川が東に流れている。地形的に丘陵を言う場合は少し西側の安中市に近づいた位置になる。一般的にこの台地、段丘のある若田町、八幡町を一つの名称で若田丘陵と言っているようである。丘陵はいくつかの谷地をつくっている。本調査地は北側の烏川寄り台地の南～西の範囲が傾斜地となっている地形のわずかな平らの部分である。平らの部分の現在は空き地と畑地になっている。

標高はおよそ132mにある。本調査地周辺の若田台地・丘陵には縄文時代、弥生時代、古墳時代、平安時代等々多くの遺跡が調査されている。周辺の遺跡あるいは確認では本調査地から東北約0.1km、図中2で縄文中期土器と遺構が確認されている。東南東約0.2kmの剣崎稲荷塚遺跡では縄文時代の前、中、後期の竪穴住居跡と土器。平安時代の竪穴住居跡、土器が見つかった。剣崎六万坊遺跡では縄文中期の埋甕、古墳中～後期時代の竪穴住居跡が調査されている。七五三引遺跡では古墳時代後期の竪穴住居跡が、剣崎長瀬遺跡では五世紀後半代の群集墳が調査され、方形の積石塚、韓式系土器や金製垂飾付耳飾り、古墳時代初期の馬具等の出土で注目された。その他に古墳が点在している。これらから本調査地は重要な地域でもある。遺構の可能性が高いと考えられた。狭い調査地であるけれどもトレンチを実施することになった。土層：現耕作土層42～48cmの下層は10～20cmの暗褐色のローム漸移層がつづく。トレンチ南壁では現表土層47cm下は浅間板鼻軽石層（As-Y P）の 漸移層、87cm深さでは浅間板鼻軽石層になる（As-Y P略してY P）。



1. 本調査地

2. 平成11年試掘

3. 剣崎稲荷塚遺跡

4. 平成17年試掘

5. 剣崎六万坊遺跡

6. 剣崎長瀬遺跡

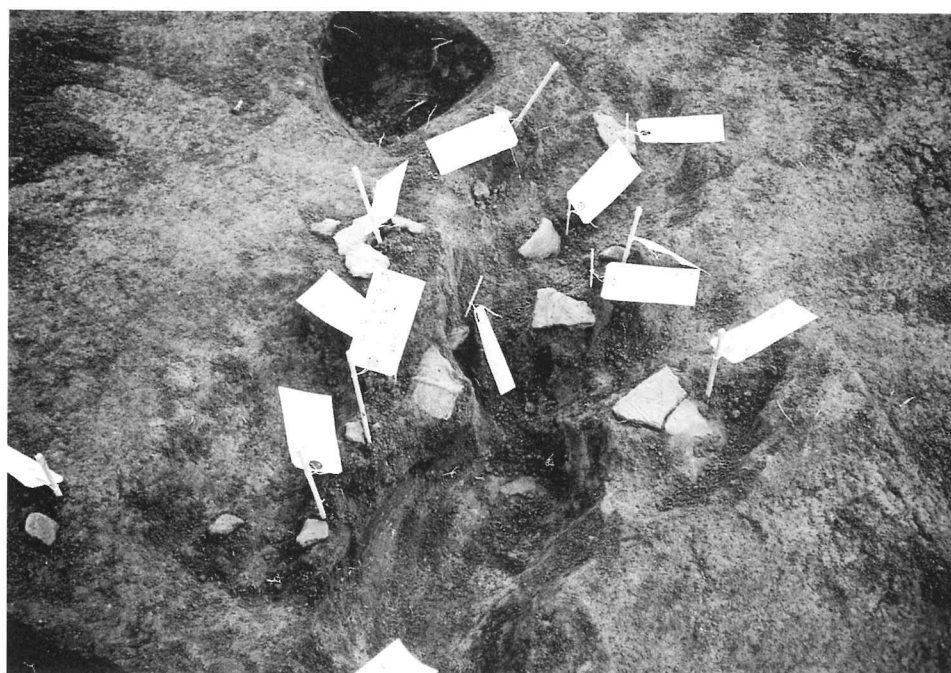
7. 七五三引遺跡

図 25 調査地

4.4. 剣崎稲荷塚



写 13 トレンチ全景 北東から



写 14 土器出土状況 北から

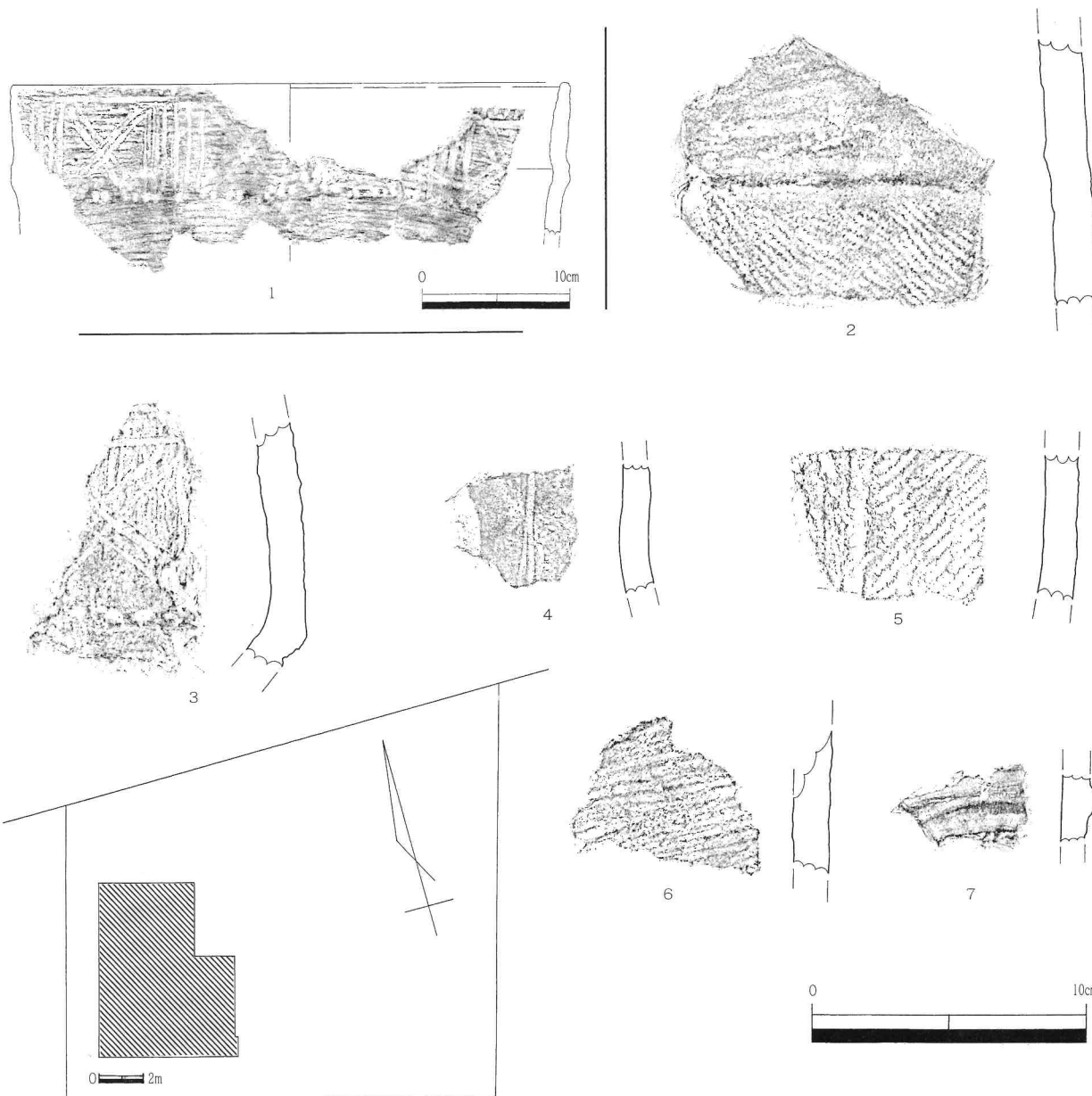


図 26 トレンチ

図 27 トレンチ内出土遺物

YPの下層は黄褐色粘質土、明黄褐色粘質土層が続く。調査面は現耕作土層の直下土層のローム漸移層面である。現耕作土層を掘削した結果、トレンチ内およそ全面から土器が出土した。出土状況は浅い窪み状の中や平面状の位置に散らばった状態であった。窪み状の深さは浅いものであり自然的な形状であるので遺構としては考えにくいものだった。調査地全体はかなりの傾斜地なので上方からの雨水の影響はかなりあったと思われる。表土層下部やローム漸移層表面を削り流してできた結果の窪みと考えられた。また現耕作土層直下を考える開墾とその原因による窪みとも言える。図24はその時の出土土器である。出土土器は同じ様な土器片なのでその一部をのせた。ここでの出土土器は上に述べたような攪乱に近いような土層の状況に在ったことがわかる。1、3の縄文早期である条痕文系土器と2、4～7の縄文中期土器が同じレベルで一緒に出土している。1と3は同じ種のモノで、胎土に繊維を含んでいる。少し薄手だが硬く締まっている。口縁部分に隆帯をもち、隆帯部は刺突され巡る。口縁部はゆるくくの字に曲がり、口縁外面は複数の縦の沈線をほどこし、縦の沈線の中側にはクロスの沈線を書いている。口唇部にも刺突されている。内面にも沈線をし、極わずかだが口唇部分は波状があるようだ。土器は茅山下層式の特徴を持っている。

4 4. 剣崎稲荷塚

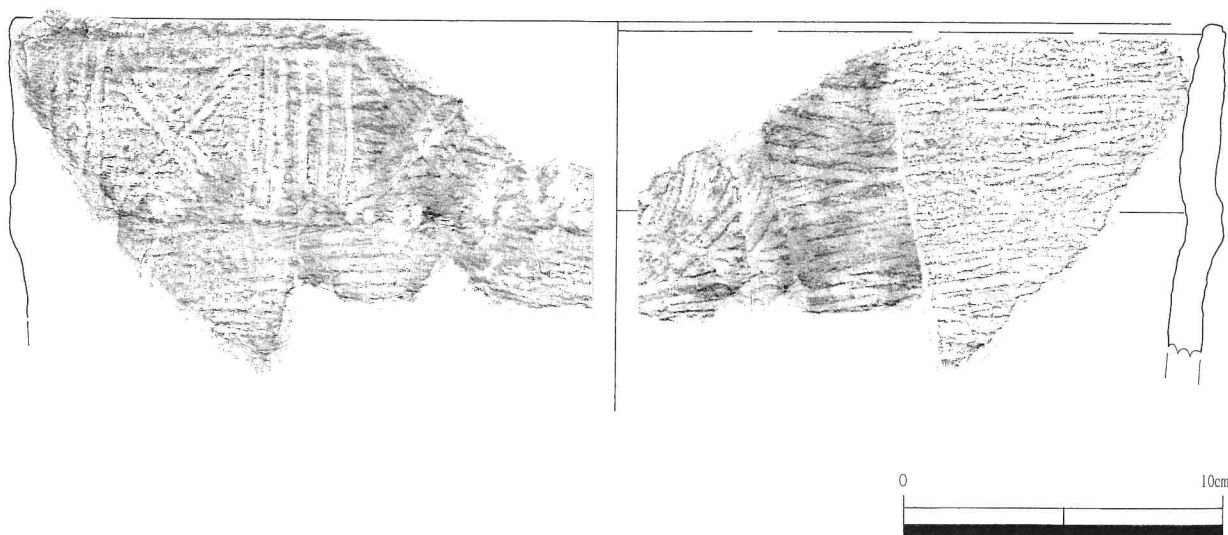
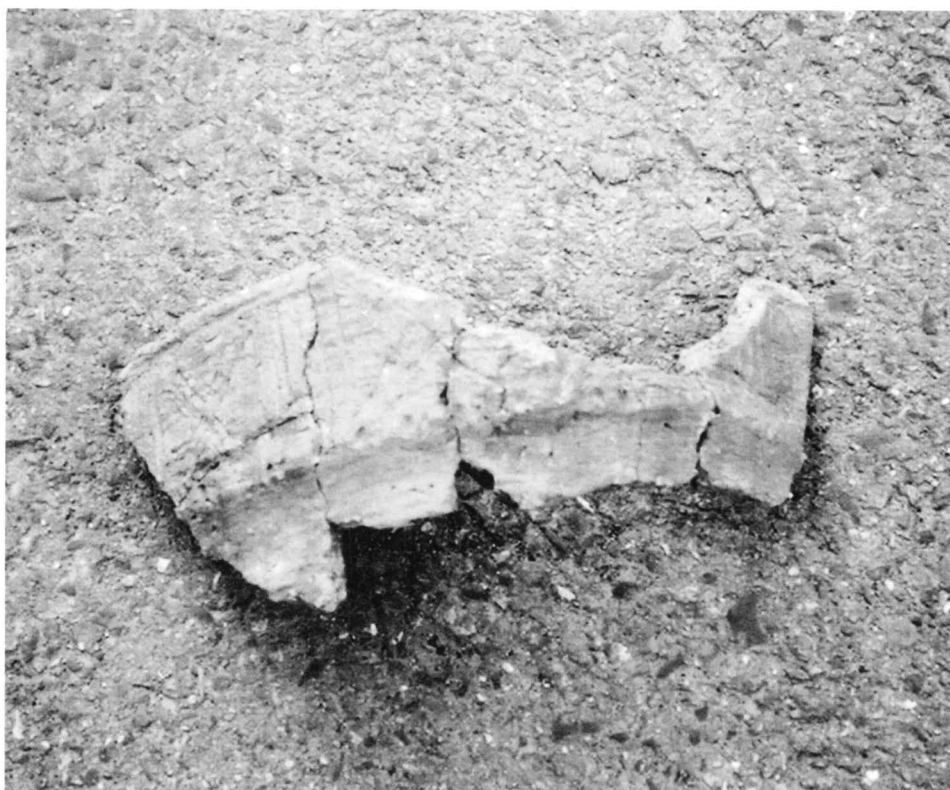


図 28 出土遺物実測と拓本



写 15 出土遺物

4 7. 貝沢稲荷塚

(1) 所在地 貝沢町稲荷塚1222-1

(2) 調査期間 平成17年10月17日

(3) 対象面積 456m²

(4) 開発内容 集合住宅新築

(5) 経過・結果 本調査地は貝沢町を通過している環状線より東へ1.5km、調査地より北西2.3kmに不動寺がある。不動寺の西方0.1kmには6世紀後半と言われている前方後円墳がある。遺物に銅椀や金属製馬具等が出土している。これの遺物は綿貫観音山古墳や観音塚古墳に共通し、これらから考えられることは井野川中流地域の中核をなす首長墓の一つと考えられている。また南に約0.3kmには方形周溝墓を検出した貝沢柳町遺跡がある。そのほか周辺に遺構や遺跡のある地域である。調査地は更地になっているが元々は畑地であろう。海拔は92.2mにある。調査

面までの深さは現表土面から約64cmである。調査面までの基本土層は7層を確認し、一部深く掘った。表土層から順次下層へ述べると、盛土は約29cmある。つぎに黒褐色、浅間A軽石の混土層。暗褐色A混土層。ローム混土層。黒色浅間C混土層。ローム漸移層。ローム土層である。トレンチ東側の暗褐色土とロームの混土層はロームを掘りあげ固めた土層であろう。その直下に浅間C混土層がある。上記ローム混土層はトレンチ幅、およそ2分の1程度、北壁側に切れてなくなっている。その部分の境目の土層は上層から黒色の川砂が混じった細砂土層。ローム粉のブロック状の土層、黒褐色の砂、ロームブロック、小礫の混じった砂質土層。黒褐色の砂粒がわずかに混じるシルト層。2cm大の礫混じる黄色ロームの順に堆積している。これらの堆積した土層から考えられることは溝ないし堀である。この覆土から埴輪片が出土した。このトレンチ東側の土層は墳丘築造の土層断面に類似するものであり、堀であるとすれば古墳の可能性のあるものである。

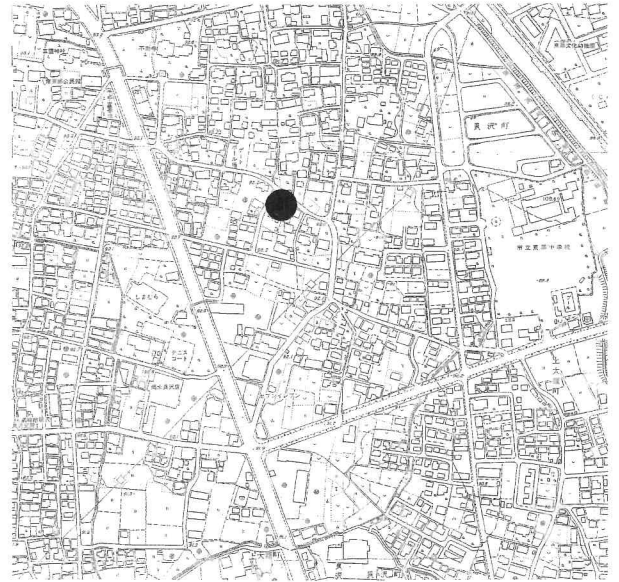


図 29 位置図



写 16 東壁 西から

50. 昭和町

- (1) 所在地 昭和町167-2
- (2) 調査期間 平成17年10月26日
- (3) 対象面積 1,295.6m²
- (4) 開発内容 土地分譲住宅

(5) 経過・結果 本調査地は南約0.2kmの場所に市総合文化会館があつて、東の先約50mは県道飯玉・本町線が南北方に市内を抜けている。調査地含めて周辺は建物で密集して分かりにくくなっているが町内の間には幾つか水路が折れながら流れている。現在の町並みではすべて平坦であるが地中はかなり変化のある地域であることが試掘調査を通じて分かった。過去の本調査地の500m範囲で水田遺構が確認されている。近くでは東北100mに平安時代の水田跡が検出されている。トレンチは現在更地である土地に南北方向にいった。土層：現表土から16層下

層まで確認した。主な土層について述べると、炭ガラ層を含む盛土26cm下に13cm厚の前表土層、A混砂質土がある。7、8層に黒褐色のBが多量の層、10層に浅間B軽石層純層が15cmの厚さで堆積している。この純層はトレンチ北2mまでの位置で、それより南には層がない。13、14層目が灰黄褐色のFA洪水土層（シルト、粘質土）2層がある。FA洪水粘質土の直下から畦が検出された。（写）

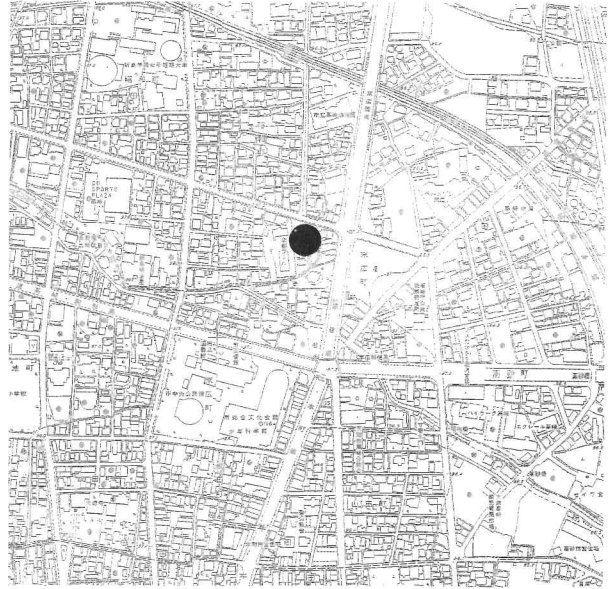


図 30 位置図



写 17 FA下畔 南から

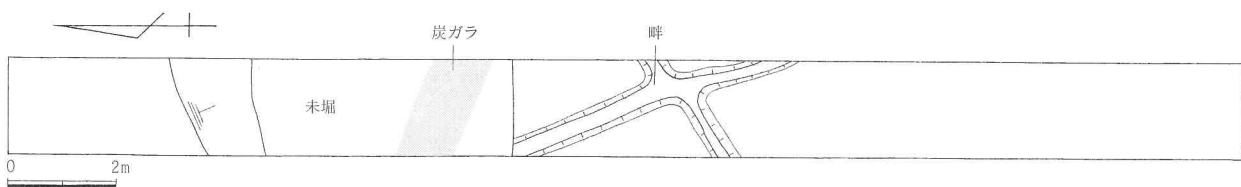


図 31 トレンチ平面図

64. 剣崎森下

- (1) 所在地 剣崎町森下239 他
- (2) 調査期間 平成17年17月26日
- (3) 対象面積 2,257m²
- (4) 開発内容 共同住宅建設

(5) 経過・結果 本調査地はJR信越線・群馬八幡駅から東北に直線で約0.8km。県道群馬八幡停車場・剣崎線から西へ直線で約0.15kmに位置する。地形的には丘陵舌状台地南面低地にある。総体的には東南傾斜の中にある。調査地の西側と北側隣地の高低差は1m以上あり、1ブロック道路南側では現在水田として利用しているので本調査地は丘陵縁部分にあたるのではないかと考えられる。地目は田と雑種地で当日は盛土され更地になっていた。盛土は厚く88cm以上ある。盛土表面から約155cm下に浅間Bの純層があった。その純層をよく見るとFAブロックを含んでいる。純層直下には薄い灰層があり、Bは純層であったと考える。Bを除くと人の足跡と動物の足跡が検出された。水田跡の可能性はあるが足跡の黒褐粘質土層は最下層のシルト層まで明瞭でなく、低地か窪地に長く堆積した粘土層ではないかと考えている。

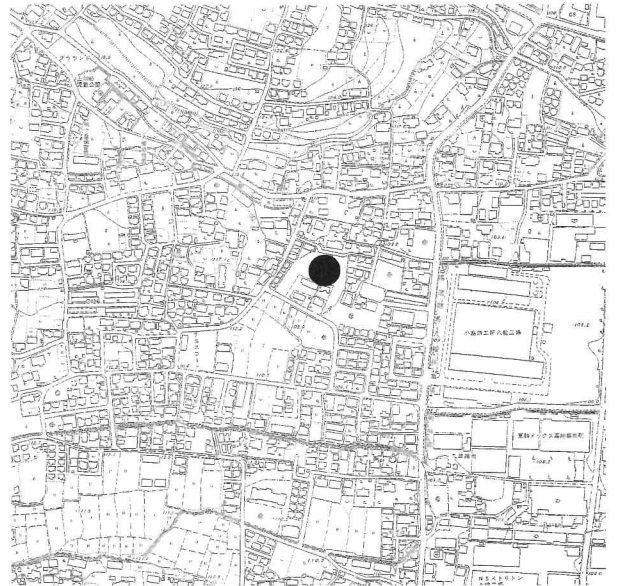


図 32 位置図



写 18 足跡 南から

65. 宮原

- (1) 所在地 宮原町7-1
- (2) 調査期間 平成18年1月18日
- (3) 対象面積 6,413.67m²
- (4) 開発内容 土地分譲住宅

(5) 経過・結果 本調査地はJR高崎線・倉賀野駅から北西に直線で約0.8km。倉賀野工業団地内を走る国道17号線から北へ直線で約0.15km入った所に位置する。本調査地周辺の過去の発掘調査では水田跡が主体的である。約0.4km北西の下中居条里遺跡は古墳時代・平安時代の竪穴住居跡、水田跡が調査されている。中世では溝跡が発掘された。下中居条里遺跡の北に隣接する矢中村西。遺跡では平安時代の水田跡を調査している。高崎線の南側でもB水田跡を発掘している。トレンチはL形とそれに平行なトレンチ1本をおこなった。L形のコーナー部分に浅間B軽石の混土を覆土とした井戸跡を検出した。井戸の中には大きさ30cm以上の大礫が6個ほど埋まっていた。上幅直径約2m、下幅直径約0.6m、深さ約1.3mのロート形である。遺物はないが、土層等から中世遺構が考えられる。

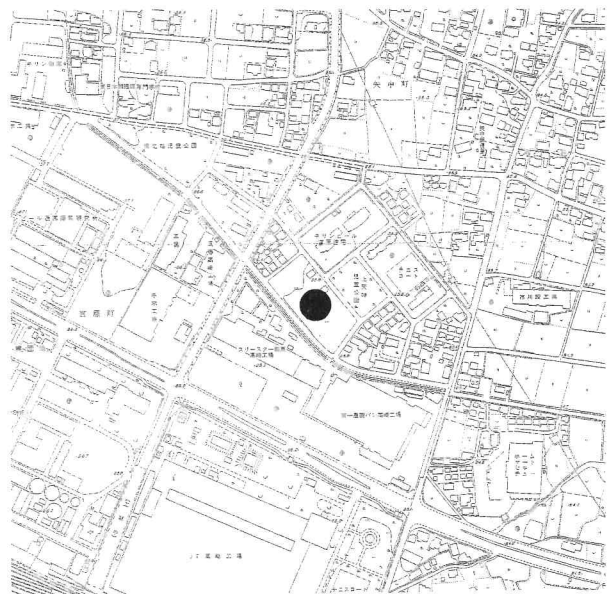


図 33 位置図

68. 上並榎

- (1) 所在地 上並榎町75番地他
(2) 調査期間 平成18年1月31日
(3) 対象面積 761m²
(4) 開発内容 長屋新築

(5) 経過・結果 本調査地は「はなみずき」通り北側に接する場所で国道17号線の並榎交差点から約0.45km北西の位置にある。調査地の上並榎町周辺の過去の調査には水田遺構が数多く調査されている。

「はなみずき」通りは上並榎御料所、上並榎下松遺跡として浅間C下水田跡、FA下水田跡、浅間B水田跡が検出されている。本調査地の周辺は水田遺構に囲まれている状態ではあるが北西約0.6km、海拔104mあたりの微高地では古墳もある地形でもある。微高地上周辺にはまた古墳が点在している。当調査地の水位は高い場所である。トレンチは東西方向にいった。トレンチ東端において、現表土面から約56cm下、7層目に厚さ10cmの浅間B軽石層あり、その軽石層下から畦畔を検出した。畦の上幅約28cm、下幅約62cm、高さ8～11cmの比較的しっかりした形状の畦畔である。しかしB軽石の堆積層は東端から約4.3m、すぐ東の道路から約8.4mまでで、その位置より西側にはB軽石層はない。B軽石層下層には遺構の対象になる土層はなかった。今回検出の畦畔は一部分であるが上記遺跡の同時代の畦畔につながると考えられる。

総括

28. の試掘調査地に近い隣接地の下佐野遺跡では縄文、古墳、平安、中世から近世まで発掘調査をしている。縄文時代の遺構、出土遺物は中期から後期まで発見されている。加曾利Ⅰ～Ⅲ、称名寺、堀ノ内式の土器が出土している。攪乱土坑から出土した本調査地の縄文土器はこの付近でも直近にある遺構のものであることを思わせる。44. 剣崎稲荷塚の縄文早期・条痕文系土器出土は初めてのものではないかと思う。47. 貝沢稲荷塚のトレンチでも縄文中期土器をひろっている。32. 上中居でも縄文、弥生遺構を付近に思わせる。35. 中居では古墳時代の周溝墓、弥生の遺構の可能性を、57. 高関は弥生、古墳、平安時代の遺構を付近に想像させられた。中世溝では8. 台新田、24. 矢中、32. 下中居で。近世土坑は37. 貝沢島。B水田跡は6. 日高、東町、井野天水、68. 上並榎等で、FA水田は昭和町で確認。C水田は今回は確認されなかった。



写 19 井戸

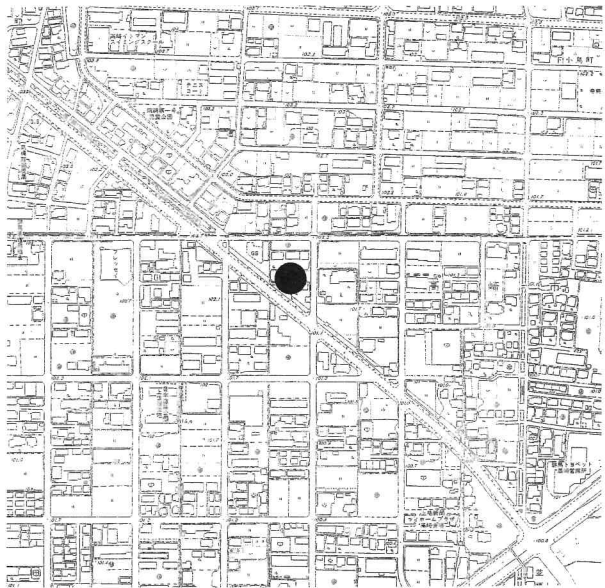
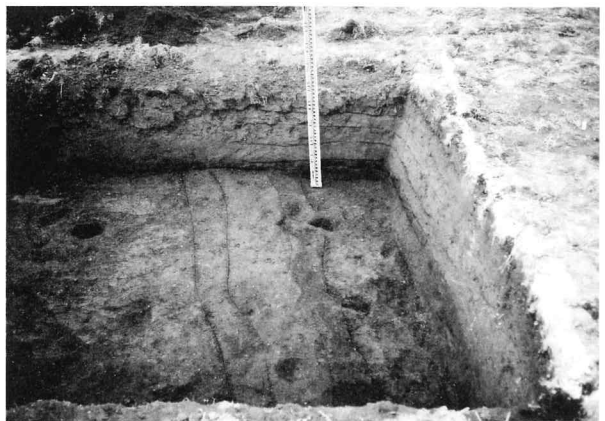


図 34 位置図



写 20 B下 畦

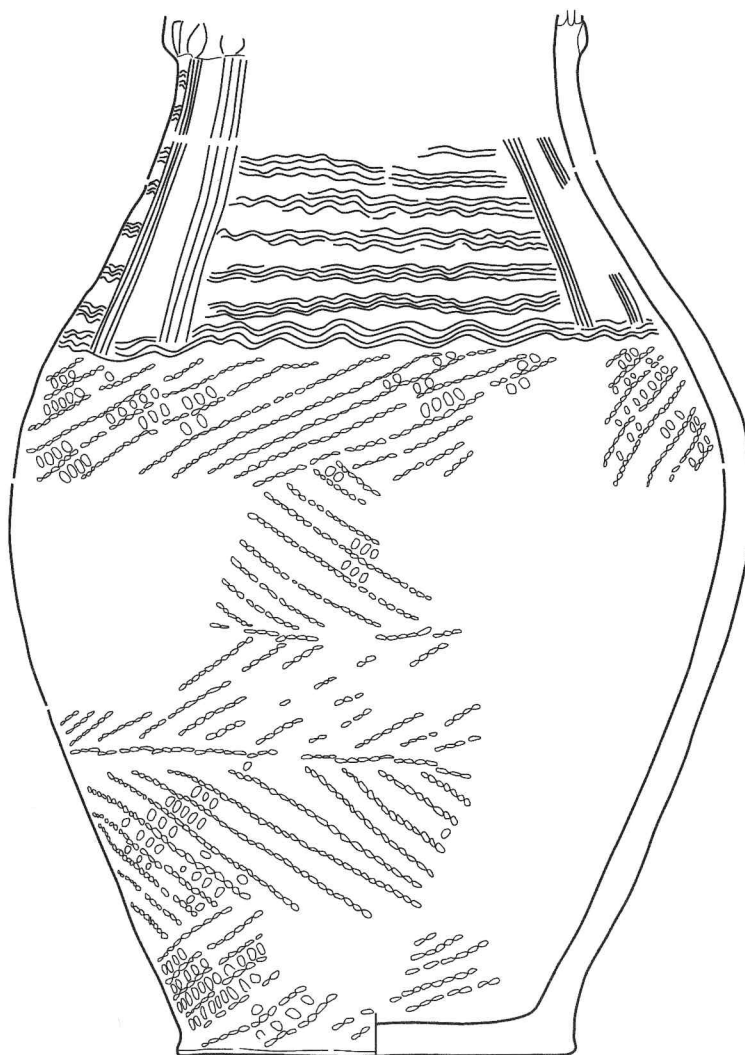
《資料紹介》

日高町出土の十王台式土器

ここで紹介するのは、上滝収蔵庫整理中に確認した十王台式土器である。土器に付属していた荷札の記載から、日高遺跡周辺で出土した可能性が高いと考えられる。

本資料は口縁部を欠損しているものの、頸部から底部まではほぼ完存している。高崎市周辺で出土している十王台式土器のなかでは残存の割合が高い。色調は灰黄褐色(10YR 6/2)で、樽式土器に比べて色調は暗い。樽式土器との胎土の違いも明瞭であり、搬入品と考えてよいだろう。

頸部から肩部には櫛描波状文(施文具は櫛4本で1単位)が施文されている。施文の手順は、まず肩部に横位の波状文を1単位施文し、次に頸部から肩部にかけて縦位の直線文2単位を施文する。そして、最後に直線文に区画された部分に横位の波状文を7単位充填している。口縁部には突帯がめぐる。最初に施文された波状文より下位の肩部から底部にかけては、縄紋(附加条2種)が施文されている。附加条は羽状になっており、結節文も認められる。底面は摩滅が著しいが、網代痕や木葉痕は認められない。



フリガナ	しないいせきはつくつちょうさほうこくしょ
書名	市内遺跡発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第200集
編集者名	神戸 肇
編集機関	高崎市教育委員会
所在地	〒370-8501 群馬県高崎市高松町35-1
発行年月日	2006年3月31日

高崎市内遺跡

平成18年3月31日 印刷

平成18年3月31日 発行

編集 高崎市教育委員会

発行 高崎市教育委員会

印刷 芹沢印刷工業株式会社